

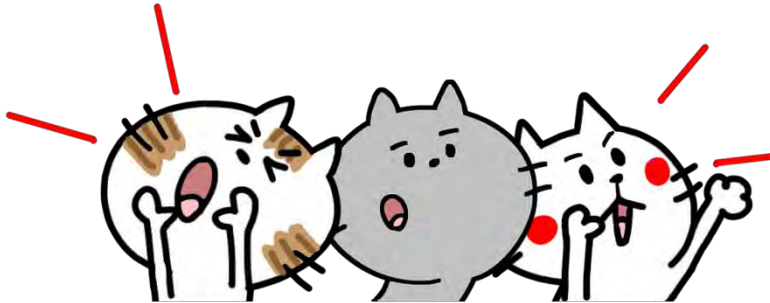


スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✿ 日本自立生活センター自立支援事業所 2022年2月24日発行第131号

春を呼ぶ！ オンラインゲーム大会



春よ来い来い、早く来い！
コロナでなかなか集まらないなら、
オンラインで集合！
みんなでゲーム大会しませんか？

なかなか会えないけれど
つながりを作りたい！

気軽に楽しい気持ちで
ご参加ください

ZOOM

ミーティング ID: 827 5693 8873

パスコード: 665462

担当: 野瀬



2022年3月31日(木) 15:00~17:00
内容は……
お楽しみに!!!



※国際障害者年連続シンポジウム 1/20開催分 ※

「当事者、支援者、家族、みんなが安心できる地域での生活とは？
～障害のある人たちが地域で支援を得ながら暮らしていくために～」

シンポジウム見逃した方、もう一度見たい方、ご覧ください。

限定配信 URL



<https://www.youtube.com/watch?v=fyjSspRME6c&t=59s>



次ページに感想あります☺

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・春木

TEL : 075-682-7950 E-mail : jcil-kyoto@jcil.jp URL : <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

第36回国際障害者年連続シンポジウム 京都市居宅介護等事業連絡協議会合同企画 当事者、支援者、家族、みんなが安心できる地域での生活とは？ ～障害がある人たちが地域で支援を得ながら暮らしていくために～ (第1回、1月20日開催)に参加して

仙台市 及川 智

1月20日にオンラインで実施されたシンポジウム(第1回)に仙台から参加しました。私は脳性麻痺による四肢麻痺と言語障害があり、電動車いすを常用しています。全国大行動に範をとり、宮城県内の障害当事者・支援者らで結成したみやぎアピール大行動実行委員会で事務局長を務めております。JCILの皆様とは、東日本大震災当時様々に支援をいただいて以来つながりをいただいています。このほど「シンポの報告・感想を」と、ありがたいお声がけをいただいた次第です。

今年のシンポは新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインのみの開催ということでしたが、遠く仙台でもこうした場を共有できるのもオンラインならではの思いです。

盛りだくさんだった第1回は1. 居連協の取り組み 2. 京都市の取り組み 3. 知的障害のある人たちの地域での暮らし、当事者、親、支援者の思い 4. 入所施設の状況、職員の思い 5. 医療的ケアのある人たちの地域での暮らし 6. 世界・日本の脱施設化の動向について という内容でした。

まず京都市居宅介護等事業連絡協議会という組織があり、会議・研修、さらには要望活動をしていることを知りました。生活者に一番近い支援者が入所施設と在宅支援の相互利用といった柔軟性に富む支援の在り方を探る姿勢に感銘を覚えました。

「京都市の取り組み」で地域定着支援などの制度紹介がありましたが、それらが十分に活用されていないという事情は仙台でもあるので、周知、取り組みが進むことを望みます。

「知的障害のある人の地域での暮らし」では、語られた「つながり」「たくさんの手」「やりながら考える」という言葉が示すように、関わる人がご本人の気持ちをどのようにつないでいくかが大切だと感じました。

「入所施設の状況、職員の思い」では、入所に至る背景、地域生活者との接点の少なさ、本人、職員、家族の状況などを聞くことができました。「地域生活移行の希望があった時にサポートできる体制を築きたい」という言葉が印象的でした。

「医療的ケアのある人たちの地域での暮らし」では、筋ジス病棟から地域移行した藤田氏の「やりたいことを後悔しなくなかった」という言葉が印象的でした。また話題に上った「何かあったら」という言葉は、しばしば投げかけられます。危険から守る効果もありますが、それによって失われる機会や経験も大きいことを認識すべきだと感じます。

「世界・日本の脱施設化」では、世界的に“脱施設化”と言われているビジョンが日本で矮小化されつつあることを再認識しました。“ハコ”だけを見ることなく、本人の状況と暮らしを中心に考えることの重要性を改めて思います。今、障害者支援の現場をざわつかせている「(通過型)グループホーム」の議論も注視したいと思っています。

ごく簡単に各セクションの感想を書きました。総じて感じたのは、どんなものがあれば本人の思いに近づけるのかということをお本気で取り組み、実践する組織や個人の思いが形になるのだということです。しばしば人手不足、時間不足、お金の不足について言及されました。それでも「どないかしよ」という雰囲気を感じ「人々の思いがその地域をつくるのだ」と改めて感じました。



滋賀県旧優生保護法 情報公開請求訴訟

滋賀県旧優生保護法情報公開
請求訴訟、
第7回公判の傍聴案内です。

一人でも多くの方のご協力をお願ひします。

香田

今までの裁判の経過

旧優生保護法による強制不妊手術が行われた経緯や詳細が書かれている資料を京都新聞社が滋賀県に対して開示請求しましたが、滋賀県からの開示資料は殆ど黒塗りで皆無に等しいものでした。裁判の中で滋賀県側は、個人を特定（医師や病院も含めて）出来るような情報は公開出来ないと主張しています。今回も引き続き、原告（京都新聞社）側の反論になります。

日時：2022年3月15日(火)14時30分開廷

場所：大津地方裁判所本館 101号法廷

(本館ロビーにて1時間前に傍聴整理券が配布されます。多数の場合は抽選となります。)

大津地裁での傍聴が終わってから、隣接する**逢坂市民活動センター**大会議室に於いて、当日の陳述・弁護団の主張・滋賀県の主張等、訴訟内容の報告をいたします。

新型コロナウイルス感染予防のため、**定員があります**ので参加予定の方は恐れ入りますが下記連絡先までご連絡ください。

尚、情報保障（手話通訳・文字通訳など）が必要な方、車いすでの傍聴希望の方は3月8日までにご連絡ください。
ご不明な点などございましたらお気軽にご相談ください。

報告会はオンライン配信を行いますので、参加希望の方は名前とメールアドレスを記入してメールで下記の申込先に申し込んでください。

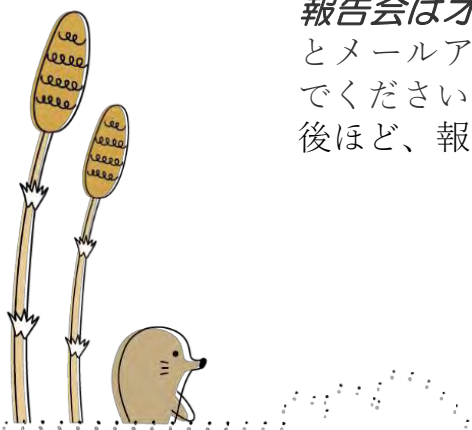
後ほど、報告会参加のURLを送らせていただきます。

※申込先

村田恵子

携帯:090-8886-9377

Email : miyabi-kyotojapan@docomo.ne.jp



第42回 京都福祉まつり開催のお知らせ

今年もオンライン開催です! 3/13(日)~



今年度も昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、京都福祉まつりはオンライン開催を予定しています。年明けからここ数ヶ月、オミクロン株感染者の急増によって、本当に新型コロナが身近なところまで来ていることを実感する日々が続いていますが、ふとした瞬間に見つけられる「楽しみ」や「喜び」を忘れないようにしたいものです。

今回、私たち京都福祉まつり実行委員会では、そんな願いも込めて、企画全体のテーマを「お出かけ」にしました。新型コロナが落ちて「そうだ! 京都へ行こう」と思われた際に役立つ、車いす使用者視点での「京都・街ぶら企画」や昨年好評だったアート企画では、「春・旅・ららら」というテーマでアート作品を募集し、東九条で活躍されているアーティストの方からコメントをいただいた講評会の様子を動画収録しています。

そして、座談会企画では様々な障害種別の方々に参加していただき、それぞれの視点で「お出かけ」について語っていただきました。

これらの動画素材を3月13日(日)の第42回京都福祉まつり当日から動画を公開いたします。なお、13日はLIVE配信も行いますので、みなさまお楽しみに~♪



LIVE 配信日時：2022年3月13日(日) 11:00~15:30

動画公開期間：2022年3月13日(日)~3月31日(木)

特設ページ：<http://kyoto-fukushimatsuri.com>

事務局：第42回京都福祉まつり実行委員会

京都市南区東九条松田町 28 ムジグラス京都十条 101

日本自立生活センター-気付

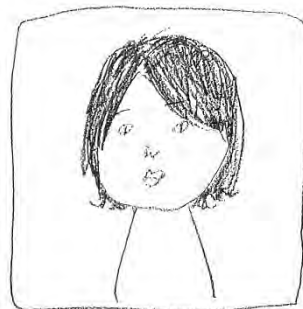
電話：075-671-8484 F A X：075-671-8418

メール info@kyoto-fukushimatsuri.com



職員自己紹介

- ①なまえ
- ② JCIL との関わりはいつから?
- ③ きっかけは?
- ④ どんな仕事をしていますか?
- ⑤大切にしていること・これからしたいこと



① 江種 佑香 (えしゅ ゆか)

② 2020年2月から

③ JCILで働いていた知人に声をかけてくれたりしてから。福祉で家にひきこもって居たので、最初はこわかったけど、何回もゆるゆると誘われてるうちに少しずつ勇気が湧いてきたので、働いてみることに働き始めからしてみたら丁寧に向かってくれたので「ここにいたい」と思いました

④ 介助に行かせられています

⑤ 大切にしていること：無理をしないこと

これからしたいこと：やったことないことばかりなので、とりあえずなみで一回ずつやってみたいですね